令和４年１２月２６日
しあわせ子育て応援部
資料１

オンライン１００人女子会　開催結果概要

１．事業目的

若年女性の県内定着・回帰促進のため、当事者である若年女性が多数参加し、互いに山形での暮らしや仕事について本音で意見交換を行う「オンライン 100 人女子会」を実施することにより、若年女性を取り巻く現状や課題を把握する。

２．開催内容

開催日時：令和４年９月 28 日（水）13:30～
　　令和４年 10 月１日（土）　9:30～
　　（２回とも開催内容は同じ）
参 加 者：学生を含む県内外の若年女性
　　9 月 28 日（水）　56 名
　　10 月　1 日（土）　45 名（計 101 名）
開催内容：オンライン１００人女子会～わたしと山形の未来について～
　①アイスブレイク＆ミニセミナー
　　“わたしたちを取り巻く山形県のリアルとポジティブチェンジのための
　　リフレーミング”
　②グループトークセッション
　　「仕事」「家庭」「地域」をテーマにグループトーク
　　“ホンネで語る山形の暮らし”
　③グループトークの振り返りと全体共有“明日からのわたし”

３．参加者属性（回答 78 件）※分類の一部を記載

（１）年代（10 代 3.8%、20 代 25.6%、30 代 41.0%、40 代 20.5%、50 代 3.8%）
（２）市町村（山形市 26.9%、米沢市 10.3%、天童市 6.4%、鶴岡市 3.8%、県外 3.8%）
（３）職業（会社員 33.3%、公務員 14.1%、パート・アルバイト 12.8%、自営業 9.0%）

４．参加者アンケート結果の概要（回答 43 件）

（１）参加して有意義と回答した割合 93.0%
　　（内訳：有意義 51.2%、まあまあ有意義 41.9%）
（２）本音を言えたと回答した割合 90.7%
　　（内訳：ほぼ言えた 30.2%、どちらかといえば言えた 60.5%）
（３）参加前よりも「山形県で暮らし働くこと」に対して希望を感じるようになった割合 67.4%（内訳：希望を感じるようになった 18.6%、少し希望を感じるようになった 48.8%）
（４）参加者の感想
・普段関わることができない様々な環境や年代の方と話ができて有意義だった
・一人の課題が皆の課題になる瞬間を感じ、意義のある意見交換会だった
・長らく山形から離れていたが、山形の現状が知れて有意義だった
・学生の自分からは見えない、働きながら子育てする上での託児等のサポートの大切さを感じた

令和４年１２月２６日
しあわせ子育て応援部

資　料　２

オンライン 100 人女子会　開催結果概要

主な女性の声（○プラス意見　・現状　▼マイナス意見）

仕事や働き方について

山形で働くことについて

○**共働きが多いので女性が働くこと、働き続けることへの理解がある企業が多い**。
○**男性の育児休業取得者が出てきており、職場として父親のワークライフバランスを後押しする動きがある**。
○小規模な企業が多いので、様々な業務を経験できる。
○**通勤時間が短い、満員電車に乗らなくてよい**。
○職場の居心地がよくこれからも働き続けたい。
▼**賃金が低くそもそも共働きをしなと生活が大変であり、女性が産育休中に男性も育児休業を取得するのは金銭的に厳しい**。
▼正社員になれずに苦労している。
▼職種の選択肢が少ない。
▼関東圏の同年代との賃金差がある。

女性活躍について

○女性の管理職が出てきている。
○都会と比べると待機児童が少ない（関東圏は入所希望が第 11 希望まで申請も）。
▼**女性の役職者が少なく、ロールモデルとなるような上司が少ないため、キャリアプランを描きにくい**。
▼お茶当番、電話取りなど女性だからといった固定観念による役割分担がある。
▼**都会は育児・家事や仕事に関して男女平等だが、山形では子どもが病気になれば母親が仕事を休んで看病するのが当然など、家事育児の役割が女性に偏っている雰囲気がある**。
▼**共働きが多いのに、家事や育児など女性への負担が大きい**。
▼「**子どもは祖父母に預けるのが当たり前」という多世代同居前提の話をされるのがつらい**。
▼土日に仕事がある人向けに、土日保育の充実や、土日に休める職場の環境づくり。

家庭や子育てについて

子育て・教育環境について

○**祖父母が近くに住んでいるので子育てを頼みやすい**。
○都会と比べるとファミリーサポートが利用しやすい（都会は混んでいる）。
○屋内遊戯施設が充実している。
○雪で遊べる。
▼**祖父母が子どもの面倒をみるのが当たり前という意識があるので、祖父母に頼れない人たちは肩身が狭い**。核家族に優しくない。
▼三世代同居、近居など子どもを両親に見てもらえる人が多いからこそ、**民間が参入しない**（塾の送迎タクシーや、子どもの受診代行サービスなどが普及しない）。
▼**遊戯施設の対象年齢が小学校低学年まで等で、子育て施策が小さい子どもだけの目線になっている**。小中学生が遊べる施設がほしい。
▼子ども向けのイベント情報等は積極的に情報収集をしないとたどりつかない。

男性の家事・育児への参画について

○**男性の育児休業が普及してきている**。
▼**無意識の固定観念があり、暗黙のうちに子育てや家事の負担が女性に偏在**。
▼夫は家事も子育ても手伝ってくれず、あてにできない。
▼山形県から出たことのない男性は子育てのトレンドに疎い（家事の役割分担、子育てを自分ごとに考えることができない）。

山形での暮らしについて

○自然の豊かさや旬を感じられる食の豊かさは魅力。
○親の具合が悪い時にすぐに駆け付けることができる。
・パートナーの理解や移住のハードルが下がれば、子どものために移住したい。
▼どこに行くにも車が必要、バスの本数が少ない、新幹線が遅い。
▼遊ぶところ、有名な服屋、有名なアーティストのライブが無い。
▼雪を知らない人には、冬場は不便だし怖く感じる、山形に住むことを躊躇してしまう。
▼移住者向けのサポート情報がわからない（情報を入手しづらい）。
▼**結婚＝同居という古い価値観**、収入が少なくやむなく親と同居。

地域について

地域の価値観について

○「新しいことをしよう、若者の声を聞こう」という雰囲気を感じる。
○**地域を盛り上げる人が増えて**きていて、エネルギーを感じる。
○最近は、ＰＴＡの役職に女性が就くなど、**徐々に男女の役割に変化**が見られる。
▼**自治会など地域のリーダーは男性になってもらった方が丸く収まる雰囲気がある。**
▼仕事以外の活動をするのをよく思われない。
▼子供がいないと地域行事に参加するきっかけがあまりない。
▼山形で生まれ育った人は既に友人などコミュニティがあるので、大人になってからでも交友関係を広めようという人が少ない。
▼地域を盛り上げてい行くための情報発信の仕方に工夫が必要

地域での人間関係について

○地元密着で近所づきあいも多く、**安心して暮らせる**。
○**地域の方の見守りがある**ので、子どもが一人で遊びに行っても安心。
・都会にいるときよりも、性別や年齢、属性などが様々な方々と付き合うことが多くなった。
・地域のつながりなど家族以外で**助け合える、安心できるコミュニティが欲しい**、作りたい。
▼地域や学校、親戚づきあいなど、**人間関係が濃密で大変**なことがある。
▼**過干渉や噂がすぐに広まるのがいや**。
▼コロナ禍以降、子育て世代のつながりが希薄になってきている。

見えてきた現状・ニーズ等

○ 仕事と家事や育児・介護の負担が女性に重くのしかかっている。
○ 職場などに女性のロールモデルがおらず、将来を描きづらい。
○ 男性育休取得者や女性管理職の増加等、職場に変化の動きがみられる。

○ 子育てにおける祖父母のサポートを魅力と感じている一方、それがままならない方々には疎外感・不安感がある。
○ 一部では男性の家庭参画が進んでいるが、依然として女性の負担感は大きい。
○ 自然環境や食べ物への満足度は高いが、公共交通機関や娯楽施設、商業施設等に不満がある。

○ 地域の支え合いの意識が安心感につながる反面、窮屈さも感じている。
○ 自治会の役職への登用などにおいて性別による固定観念が根強く存在している。
○ 子どものいない方や県外出身の方なども参加できる地域のコミュニティづくりが課題。